

令和元年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

（参 考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、平成30年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
a	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
b	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
c	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
d	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

平成30年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評価	備考
第1節 学校教育の充実				
1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進				
1-1	学校教育の充実	総合的な学習	a	学校教育課
1-2		キャリア教育の推進	a	学校教育課
2		学力向上	b	学校教育課
3		幼保小中の連携	b	学校教育課
4		読書活動の推進	b	学校教育課
5		特別支援教育	b	学校教育課
6		外国籍児童生徒の支援	b	学校教育課
7		給食運営・給食施設整備	b	学校教育課
8	教育環境の整備促進	学校施設の耐震化・改修整備	a	学校教育課
9		学校備品整備・情報教育	a	学校教育課
1-2: 高校教育・大学教育との連携				
10-1	高等学校支援	高等学校振興	b	学校教育課
10-2		私立高等学校振興	b	学校教育課
11	大学との連携推進	信州大学・東京藝術大学との連携	b	学校教育課
1-3: 心の教育及び支援体制の充実				
12	心の教育と支援	中間教室	b	学校教育課
13		子育て教育支援相談、家庭児童相談	b	学校教育課
14		不登校児童生徒支援ネットワーク	b	学校教育課
15		子どもと親の相談員配置	b	学校教育課
16		スクールカウンセラー配置	b	学校教育課
第2節 生涯学習・芸術文化の振興				
2-1: 生涯学習の振興				
17	生涯学習・社会教育の推進	市民大学・市民大学大学院	b	文化振興課
18		桜大学	a	生涯学習課
19		長谷生涯学習講演会	b	生涯学習課
20	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	b	生涯学習課
21		公民館建設(施設管理)	b	生涯学習課
22		公民館共同事業	b	生涯学習課
23		公民館事業	b	生涯学習課
24	図書館の充実	蔵書管理	b	文化振興課
25		図書館イベント	b	文化振興課
26		図書館分館	b	文化振興課
27	生涯学習センターの充実	生涯学習センター	b	文化振興課
28	人権同和教育の推進	社会人権同和教育	b	生涯学習課
29		学校人権同和教育	b	学校教育課

2-2: 青少年健全育成と家庭教育の充実				
30	青少年の健全育成	学童クラブ	b	生涯学習課
31		少年補導委員会・少年補導センター	b	生涯学習課
32		青少年育成対策	b	生涯学習課
33		成人式	b	生涯学習課
2-3: 文化の振興				
34	文化事業などの充実	伊澤修二記念音楽祭	a	生涯学習課
35		い〜な音楽祭	b	生涯学習課
36		市民音楽祭	b	生涯学習課
37		信州伊那井月俳句大会	b	生涯学習課
38		進徳館の日	b	生涯学習課
39		伊那能	b	生涯学習課
40	博物館などの整備・活用	創造館	a	文化振興課
41		高遠町歴史博物館	b	文化振興課
42		信州高遠美術館	a	文化振興課
第3節 文化財の保存・継承・活用				
3-1: 文化財の保存・継承・活用				
43	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	b	生涯学習課
44		民俗資料館	b	文化振興課
45		旧井澤家住宅	b	生涯学習課
46		民俗文化の伝承	b	生涯学習課
第4節 スポーツ・レクリエーションの振興				
4-1: 豊かなスポーツライフの実現				
47	スポーツライフの実現	市民体育祭	b	スポーツ振興課
48		総合型地域スポーツクラブ	a	スポーツ振興課
49		春の高校伊那駅伝	a	スポーツ振興課
50		ソフトボールの振興	a	スポーツ振興課
51		体育施設の整備	a	スポーツ振興課

第1節 学校教育の充実

1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進

豊かな人間性や社会性を身に付け、自ら学び、自ら考える「生きる力」を育むため、地域の自然、歴史、産業等に根ざした特色ある教育を進めます。また、基礎・基本の学力の確実な定着を図るとともに、一人ひとりの個性や人権を尊重した教育の充実をめざします。

(1) 学校教育の充実

事務事業	No.1-1	総合的な学習	H30年度決算額	6,877千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切に伊那市らしい総合的な学習を推進します。			
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学習」、「体力づくり」など創造的な学習の支援			
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金、信州型コミュニティ・スクール交付金を、全小中学校に交付しました。			
	区分	学校名	平成30年度主な取り組み	
	小学校	伊那	動物飼育（やぎ・羊他）、農作物栽培と調理、伝統文化の学習など	
		伊那東	稲・野菜栽培、伊那まつり参加、五平餅販売、高齢者等との交流など	
		伊那北	稲・野菜栽培と調理、里山利用と整備活動、炭の製作、ヤギ飼育など	
		伊那西	稲・野菜・動物飼育、酪農体験、チョウの観察、学校林活用学習など	
		富県	稲・小麦・野菜栽培、古墳・城跡調べ、花栽培、保育園との交流など	
		新山	地域・歴史・新山トンボ学習、白毛餅米栽培、新山まつり参加など	
		美篁	もち米・小麦・野菜栽培・調理、注連縄づくり、地域学習など	
		手良	稲・小麦・野菜栽培、収穫物調理、手良っこ太鼓、地域交流など	
		東春近	稲・野菜栽培、五平餅・ローメン作り、りんご体験、羽広菜栽培など	
		西箕輪	稲、豆腐作り、養蚕学習、保育園・中学・養護学校との交流など	
		西春近北	野菜・大豆栽培学習、地域太鼓学習・くぬぎ太鼓、火山灰学習など	
		西春近南	稲・小麦・野菜栽培と調理、養蚕学習、地域職場体験、ICT活用など	
		高遠	稲・唐辛子・野菜栽培、鳥飼育、桜・伝統芸能の学習、道徳の森など	
	高遠北	そば・野菜栽培、そば打ち、養護学校との交流、音楽劇・太鼓など		
	長谷	稲・野菜栽培、孝行猿劇・創作歌舞伎公演、井筋学習、ICT学習など		
中学校	伊那	ふるさと伊那谷学（農業体験、職場体験、地域産業学習）など		
	東部	伊那市産業学習、鹿食害調査、仙台市立中との交流、郷土学習など		
	西箕輪	地域食学習、伊那養護学校との交流、職場体験、和太鼓演奏など		
	春富	キャリア教育、農業体験・職場体験、進路学習、環境教育学習など		
	高遠	森林学習、キャリア教育、観桜期プロジェクト、観桜期ボラ活動など		
長谷	中学生にできる地域おこし活動、カレーフェス、歌舞伎、ラー油など			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学習」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」を養う必要があります。</p> <p>【方向性】意欲に関わる学力の伸長を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。また、信州型コミュニティ・スクール事業に取り組み、地域に開かれた学校づくりを推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.1-2	キャリア教育の推進	H30年度決算額	2,877千円
事業の目的	子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育むために、学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の推進に取り組みます。			
事業内容	○伊那市キャリア教育推進委員会の運営 ○職場体験学習の実施 ○伊那市中学生キャリアフェスの実施 ○キャリア教育産学官交流会ほか郷土愛プロジェクト事業への参画			
達成状況	○市内中学生を対象に学校、事業所と連携を図りながら職場体験学習を実施しました。 ・実施生徒数 668人 平均実施日数 3日 ・受入事業所数 177か所 (H27:192か所、H28:192か所、H29:184か所) ○中学生が新たな出会いや発見を体感しながら、地域の良さを改めて実感し、未来を考える機会として、伊那市中学生キャリアフェスを開催しました。 ・参加生徒数 市内全6中学校2年生 647人 ・出展ブース数 105 ○「伊那北小ハローワーク」や富県小学校、手良小学校のPTA主体のキャリア教育関連行事などの取組により、小学生が働くことの楽しさややりがいを感じ取り、様々な職業の特色を知る機会となりました。 ○上伊那の産学官組織が協働しながら、次世代育成や地域づくりを実践する郷土愛プロジェクトの事業に参画しました。 ・キャリア教育産学官交流会 参加者 292人 (H27:161人、H28:274人 H29:255人) ・伊那中学校1年生 上伊那市町村フィールドワーク ほか			
事業の課題及び方向性	【課題】 職場体験学習の実施に係る事務手続き等の流れは定着してきましたが、生徒・学校と受入事業所との目的、理念の共有をさらに図っていく必要があります。 【方向性】 事前事後学習等を通じて生徒一人一人に目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるといふ伊那市キャリア教育憲章のビジョンを関係者間で共有する取組を推進します。また、キャリア教育の一貫性、継続性を担保するため、小学校、高校等との連携を図ります。			
自己評価	a			



放課後学力向上支援事業から (伊那中学校)



キャリア教育 (伊那市中学生キャリアフェス)

事務事業	No.2	学力向上	H30年度決算額	5,151千円
事業の目的	<p>自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童・生徒一人一人の実態に応じた学習指導を行います。</p> <p>また、小学校と中学校の放課後に行われる自発的な学習活動を支援します。</p>			
事業内容	<p>○標準学力検査（NRT）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学4年生（590人）算数・小学5年生（590人）国語、算数、 ・中学2年生（625人）国語、数学、英語 <p>○学力検査結果の分析と授業改善</p> <p>○中学生の放課後学習支援事業の実施</p> <p>○小学生の学力向上支援（授業中、業間、放課後）事業の実施</p> <p>○読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業の実施</p>			
達成状況	<p>○伊那市が標準学力検査（NRT）を始めて15年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。</p> <p>○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力向上検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表会」を開催し、検査結果を基にした授業改善の発表と模擬授業を行いました。</p> <p>○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援しました。 受講生徒数 402人（H28: 552人、H29: 561人） 支援員数 51人（H28: 52人、H29: 59人）</p> <p>○小学校の学習支援員による学力向上支援事業を行いました。 受講児童数 1130人（H28: 995人、H29: 926人） 支援員数 59人（H28: 58人、H29: 58人）</p> <p>○平成28年度より全小学校の1年生にMIM(多層指導モデル)の導入をしており、読み書きについての研修を実施しました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】平成30年度に市が実施した標準学力検査では、中学校2年の数学・英語において学力の定着が認められますが、小学校4年生の算数、5年生の国語・算数、中学校2年の国語に若干の課題がみられます。しかし、全国平均とのポイント差はわずかであり、各教科とも全国標準の範囲内にあるといえます。</p> <p>また、新学習指導要領で小学校における外国語教育が拡充されたことに伴う授業時間の確保、学習体制の構築が課題となっています。</p> <p>【方向性】学力検査などの分析を、児童・生徒一人一人の学習指導に活かすとともに、体験的な学習やグループ学習を取り入れ、授業をもっと良くする3観点を意識した授業改善に取り組み、児童生徒の自発的な学習を促進します。</p> <p>また、家庭や地域などと連携し、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」などの定着を図るとともに、家庭学習、ドリル学習等の充実を図ります。さらに、学力向上支援ボランティアの募集を行い、各校のカリキュラムに応じた学力向上支援事業に取り組みます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.3	幼保小中の連携	H30年度決算額	0千円
事業の目的	<p>保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるように幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図るとともに、中一ギャップと言われる中学校進学時の不登校の増加など、学校不適應への適切な対応を図ります。</p> <p>子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適應、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。</p>			
事業内容	<p>○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流</p> <p>○保育士、小・中学校教員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催</p> <p>○幼保小連携プログラム「伊那市版幼保小連携プログラム」の実践</p>			
達成状況	<p>○保育士・小学校教職員の相互1日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。</p> <p>○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づく、地域の特性を生かしたアプローチ・スタートカリキュラムの作成、実践により、保育園から学校へのスムーズな接続が図られました。</p> <p>○支援を要する子どもを対象に「成長ダイアリー」を作成し、幼・保・小・中・高の情報共有を図っています。</p> <p>○一日入学、運動会、音楽会、文化祭など学校行事への参加、クラス交流、中学校教職員の小学校での出前授業等、入学、進学への期待感を育みました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】小1プロブレム、中1ギャップと言われる進学時の学校不適應への対応が求められています。</p> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、教職員間の相互交流などを通じ心的距離の縮小を図ります。 ・伊那市版「幼保小連携プログラム」の内容について、教職員、保育士が理解を深める合同研修会を実施するとともに、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。 			
自己評価	b			

事務事業	No.4	読書活動の推進	H30年度決算額	48,111千円
事業の目的	<p>心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。</p>			
事業内容	<p>○学校司書の配置</p> <p>○読み聞かせボランティアの活用及び充実</p> <p>○学校図書館システム活用</p>			
達成状況	<p>○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校行っています。</p> <p>○全校に配置した学校司書（17人うち2校勤務4人）が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。</p> <p>○図書館システムを全小中学校に導入し、活用しました。</p> <p>【参考】図書館の本の1人当たり平均貸出冊数</p> <p>小学校 105冊（H27：112冊、H28：109冊、H29：114冊）</p> <p>中学校 23冊（H27：35冊、H28：29冊、H29：29冊）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。また図書館システムのスムーズな本格稼働に係る研究や検討を行います。</p> <p>【方向性】引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える学校司書を配置します。</p>			

	読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。 図書館システムを有効活用した読書活動及び調べ学習を充実していきます。
自己評価	b

事務事業	No.5	特別支援教育	H30 年度決算額	68,713 千円																																		
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。																																					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育支援介助員・講師の配置 ○ 伊那中央病院院内学級の設置、運営 ○ 「ことばの教室 (伊那小学校内)」「まなびの教室 (伊那北小学校・東部中学校内)」の設置、運営 ○ 特別支援教育就学奨励費の支給 																																					
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級に在籍する児童生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員を市費で配置しました。 <p>【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th rowspan="2">支援員数 内()講師数</th> </tr> <tr> <th>児童数</th> <th>クラス数</th> <th>生徒数</th> <th>クラス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>213</td> <td>40</td> <td>75</td> <td>17</td> <td>28(1)</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>229</td> <td>44</td> <td>91</td> <td>18</td> <td>32(1)</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>225</td> <td>44</td> <td>112</td> <td>20</td> <td>37(1)</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>259</td> <td>48</td> <td>120</td> <td>21</td> <td>41(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">特別支援教育就学奨励費の支給 236 人 (H27:187 人、H28 : 201 人、H29:208 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。(副学籍児童生徒 55 名) 					小学校		中学校		支援員数 内()講師数	児童数	クラス数	生徒数	クラス数	平成 27 年度	213	40	75	17	28(1)	平成 28 年度	229	44	91	18	32(1)	平成 29 年度	225	44	112	20	37(1)	平成 30 年度	259	48	120	21	41(1)
	小学校		中学校			支援員数 内()講師数																																
	児童数	クラス数	生徒数	クラス数																																		
平成 27 年度	213	40	75	17	28(1)																																	
平成 28 年度	229	44	91	18	32(1)																																	
平成 29 年度	225	44	112	20	37(1)																																	
平成 30 年度	259	48	120	21	41(1)																																	
事業の課題及び方向性	<p>【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒数が増加するとともに、自・情障学級では、学年が上がっても在籍児童数が減少しない傾向にあります。また、通常学級において学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。</p> <p>【方向性】関係機関との連携を図り、子どもの教育的ニーズに最も的確に答える支援を提供するとともに、ノーマライゼーションの観点からも、自・情障学級から通常学級への転籍に向けた支援のあり方を検討する必要があります。</p> <p>また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。</p>																																					
自己評価	b																																					

事務事業	No.6	外国籍児童生徒の支援	H30 年度決算額	7,393 千円
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語教室の設置、運営 (伊那東小、伊那北小、東部中) ○ 外国語児童生徒支援相談員の設置 (伊那東小、伊那北小、東部中) ・ 児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等 ○ 発達障害等特別支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置 (伊那東小) 			

達成状況	外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。				
	【参考】外国籍児童 生徒数		伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校
		平成27年度	33	29	29
		平成28年度	34	31	32
		平成29年度	33	39	36
平成30年度	31	45	34		
その他 小学校5校13人、中学校3校5人					
事業の課題 及び方向性	<p>【課題】障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や、多様な言語への対応も必要となっています。</p> <p>【方向性】日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。</p>				
自己評価	b				

事務事業	No.7	給食運営・給食施設整備	H30年度決算額	378,976千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の縮減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(平成30年度県内産食材利用率 約56.2%) 【参考】 給食提供数 1,257,241食 (H28:1,314,254食、H29:1,294,995食) 給食技師数77人 (H28:72人、H29:75人) 給食1食あたりの経費 187円 (H28:185円、H29:183円) 伊那市学校給食施設整備計画に沿って給食施設の整備を行いました。 ・美篤小学校給食調理場の建設 293,069千円 ・西春近北小学校給食調理場の建設 290,326千円			
事業の課題 及び方向性	<p>【課題】子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。</p> <p>【方向性】各学校と連携を取りながら、本格的な農業体験に基づく作物の育成、食材の生産及び食に対する「いただきます」「もったいない」の感性を育む食農体験事業「暮らしのなかの食」の取り組みを小中学校21校で継続します。また、人的配置、食材調達など効率的な給食運営を図るとともに、計画的に給食施設の整備を行います。</p>			
自己評価	b			



全校飯盒炊飯



野菜の収穫

(2)教育環境の整備促進

事務事業	No.8	学校施設の耐震化・改修整備	H30 年度決算額	231,110 千円
事業の目的	<p>○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校施設の非構造部材耐震化とトイレの改修を行います。</p> <p>○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の大規模改修整備を行います。</p>			
事業内容	<p>○耐震化工事 平成 27 年度より、各校体育館の非構造部材（天井材・窓ガラス・照明器具等）の耐震化を進めています。</p> <p>○改修工事 耐震化工事と併せて屋根・外壁の改修を行うとともに、トイレの洋式化等を含めトイレの改修を進めています。</p>			
達成状況	<p>○非構造部材耐震化他工事の実施 (1) 高遠北小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修） ※ 小中学校の体育館非構造部材耐震化率 平成 30 年度末：68.0%（25 棟中 17 棟）</p> <p>○トイレ改修工事の実施 (1) 伊那中学校（管理教室棟・特別教室棟・第 2 体育館・便所棟 計 7 箇所）</p> <p>○大規模改修工事等 (1) 伊那西小学校体育館屋根改修・LED 照明改修・消火栓改修 (2) 高遠小学校ランチルーム屋根改修 (3) 伊那小学校低学年玄関サッシ改修 (4) 伊那西小・西春近南小学校ペレットストーブ設置（11 基） (5) 高遠中学校ペレットストーブ設置（6 基） (6) 春富中学校ブロック塀改修等</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 国の交付金事業が未採択となるなど、今後の先行きが不安視されます。</p> <p>【方向性】 令和元年度中に「学校施設長寿命化計画（個別計画）」を策定し、国などの有利な財源を活用のうえ、体育館の非構造部材耐震化工事を推進していきます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.9	学校備品整備・情報教育	H30 年度決算額	145,193 千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	<p>○一般教材・理科教材備品の整備</p> <p>○タブレット端末、校務用パソコン、電子黒板セット等の環境整備</p> <p>○「学校教育の情報化ビジョン」実現のための取り組み</p>			
達成状況	<p>○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。</p> <p>○伊那市小中学校情報委員会を開催し、テーマ別グループによる活動報告を行いました。</p> <p>○平成 30 年度は、電子黒板セットを 109 台導入しています。</p> <p>【参考】 タブレット端末の総数 762 台（リース継続分＋寄付分＋レンタル分） 電子黒板及び周辺機器整備台数 175 セット（16 校） 小中学校の無線 LAN 環境の整備率＝100%（市内小中学校 21 校中 21 校）</p>			

事業の課題及び方向性	<p>【課題】新学習指導要領に対応する教材備品の整備と、情報機器等の適切な管理を行う必要があります。また、パソコン・タブレット等を上手に活用する方法を身につける必要があります。</p> <p>【方向性】学校からの要望に基づき、教材備品や情報機器（タブレット他）を整備するとともに積極的に研修会を開催して先生方の指導力向上を目指します。また、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。</p>
自己評価	a

1-2：高校教育・大学教育との連携

高等学校教育の充実のための支援を実施するとともに、大学との連携により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

(1) 高等学校への支援

事務事業	No.10-1	高等学校振興	H30 年度決算額	3,000 千円															
事業の目的	過疎地域高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	<p>○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。</p> <p>○平成 23 年度から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。</p> <p>○平成 7 年にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（平成 21 年度から 3 年間）、長野大学、日本福祉大学、東京藝術大学など高大連携の拡充を図るとともに、平成 24 年度、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取組を進めています。</p> <p>○入学者数の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>109</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>○バス通学費補助 128 人、1,600 千円（H28:142 人、1,600 千円、H29:157 人、1,600 千円）</p>					平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	入学者数	110	110	109	105	定員	120	120	120	120
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度															
入学者数	110	110	109	105															
定員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	<p>【課題】定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像構築が求められています。</p> <p>【方向性】高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、「高遠学園構想」に基づく特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。</p>																		
自己評価	b																		

事務事業	No.10-2	私立高等学校振興	H30 年度決算額	1,057 千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p>【参考】定額補助 1 校当たり 600,000 円（H22 年度から 600,000 円） 生徒割補助 1 人当たり 2,600 円（H22 年度から 2,600 円） 伊那市に住所を有する生徒数 176 人（H27:191 人、H28:210 人、H29:192 人） 全校生徒数 460 人（H27:515 人、H28:527 人、H29:507 人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】昭和 63 年から普通コース、進学コースの 2 コース制を導入、地域中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実及び定員確保に引き続き努めていきます。</p> <p>【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行います。</p>			
自己評価	b			

(2) 大学との連携推進

事務事業	No.1 1	信州大学・東京藝術大学との連携	H30 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	信州大学との地域連携、交流の続く東京藝術大学との連携強化			
達成状況	<p>○小中学校での信州大学の教員による作物（唐辛子など）の栽培指導</p> <p>○信州大学生による中学校学力支援ボランティア登録 3 人（H28:9 人、H29:10 人）</p> <p>○信州大学農学部の教職免許取得学生の研修受入れ</p> <p>○信州大学生のボランティアによる通学合宿・おいで塾への協力</p> <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <p>・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境の創出とともに、信州大学卒業生の伊那市内企業への就職、市内での就農につながる取り組みが求められています。</p> <p>【方向性】 様々な機会を通じ、信州大学・東京藝術大学関係者との意見交換を行い、互恵関係を築く取り組みにチャレンジします。また、長野県工科短期大学校（上田市）に次ぐ県内 2 番目の工科短大として、平成 28 年に開校した南信工科短期大学校との連携により、これからの長野県の産業を支えていく「ものづくりのスペシャリスト」を育成します。</p>			
自己評価	b			

1-3：心の教育及び支援体制の充実

小中学校における心の問題や不登校、いじめ問題の解消に努めるとともに、良好な環境の中で子育てができるよう家族全体を支援します。

(1)心の教育と支援

事務事業	No.1 2	中間教室	H30 年度決算額	4,064 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行います。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 【小学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級1階 【中学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級2階			
達成状況	○中間教室通室児童生徒のうち小学生の37.5%（3人）、中学生の46.1%（6人）が進学又は学校へ復帰しました。 【参考】 通室者数 小学部8人（H27:3人、H28:6人、H29:8人） 中学部13人（H27:14人、H28:7人、H29:10人） 通室割合（通室児童生徒数／不登校児童生徒数） 小学部 32.0%（H27:8.1%、H28:60.0%、H29:57.1%） 中学部 23.2%（H27:36.8%、H28:17.0%、H29:18.9%）			
事業の課題及び方向性	【課題】 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 【方向性】 学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。			
自己評価	b			

☆ 春富中学校人権宣言

2007年1月19日 春富中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いかなる時もお互いに平等であり、楽しく、安心して学校生活を送っていく権利をもつ。
- 第2条 安心して生活できる学校とは、命を大切に、学校全体に落ち着きがあり、友達を信頼でき、行きたいと思える学校である。そのような学校にするため、私たちは努力しなければならない。
- 第3条 私たちは、個人の性格や容姿、人柄や考え方、身体的な特徴、能力や性別、年齢差などといった個性の違いを理由とした、あらゆる差別や、中傷、いじめなどの行為をしてはならないし、こういった行為を許してはならない。
- 第4条 私たちは学校生活において自分の意見や考えを表現する自由がある。
- 第5条 私たちは、差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしたとき、クラスや学年・生徒会、そして親や先生、友達に助けを求めることができる。
- 第6条 差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしている人を守るため私たちは立ち上がる義務がある。
- 第7条 私たちは、春富中からいじめや差別をなくしていくために、相手の気持ちを考え、思いやりを持って、行動できるよう努力する。

☆ 西箕輪中学校人権宣言

2010年1月21日 西箕輪中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いじめや差別についてよく理解するよう努力し、周りにあるいじめに気付けるようになります。
- 第2条 私たちは、一人ひとりの個性を認め、いじめや差別を絶対に許しません。
- 第3条 私たちは、毎日明るくあいさつをし、みんなが声がけできる環境をつくりまします。
- 第4条 私たちは、常に相手の気持ちを考えて行動し、温かい言葉で話します。
- 第5条 私たちは、どんな時でも、助け合い、支え合い、励まし合う友達をつくりまします。

事務事業	No.1 3	子育て教育支援相談、家庭児童相談	H30 年度決算額	32,089 千円
事業の目的	親の養育力と家族機能を高め、子どもが自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等） ○要保護児童生徒（虐待を受けている児童、非行、虞犯等）の保護 ○個別ケース支援会議による関係機関の役割分担と連携 ○就学相談 ○指定相談支援事業所の運営			
達成状況	○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。 ○親の養育力の向上を図るためのペアレントトレーニングを実施しました。 ○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子どもの安全を守るための支援を強化しました。 【参考】 相談・支援数 4,919 件（H28：6,018 件 H29：4,978 件） 児童虐待通告件数 77 件 162 人（H28：67 件 122 人 H29：53 件 109 人） 個別ケース支援会議 252 回（H28：212 回 H29：249 回） 教育支援委員会に諮った幼児児童生徒数 122 人（H28：114 人 H29：132 人） サービス等利用計画作成数：56 人			
事業の課題及び方向性	【課題】 相談件数が増加するとともに、相談内容は多様化し、緊急性が増しています。そこで、相談に適切かつ迅速に対応するため、専門職を配置するとともに、児童福祉法、障害者自立支援法の改正に伴い、小鳩園の相談支援部門と子ども相談室の機能の一本化を図ることにより、ライフステージに応じた様々な子どもの問題に対応できるようになりました。しかしながら、全体の相談件数が多いことから、個別のケースについて、十分対応できていない状況にあります。また、児童虐待については、困難な事例も多く、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。 【方向性】 今後は問題が深刻化する前に対応するため、関係機関との連携体制の更なる充実と、早期支援等の防止施策や子どもの健やかな育ちを阻む種々の根本要因に対応する施策の検討が求められます。			
自己評価	b			

事務事業	No.1 4	不登校児童生徒支援ネットワーク	H30 年度決算額	23,267 千円
事業の目的	指導主事、学校、子ども相談室、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。			
事業内容	○指導主事、学校、中間教室、子ども相談室等が連携し不登校児童生徒の支援に取り組む。 ○中学校への教員補助員配置 ○上伊那子どもサポートセンターの運営費支援			
達成状況	○平成 21 年度以降は増加傾向に歯止めがかかり、一定の成果が表れています。 ○不登校・不適應の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校への市費講師を配置しました。（5 中学校へ 9 人） 【参考】 不登校児童生徒数・割合（ ）は%			
事業の課題及	【課題】 早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。			

第2節 生涯学習・芸術文化の振興

2-1：生涯学習の振興

自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりを進めます。

ライフスタイルの多様化などにより、生涯学習に対するニーズや関心は、ますます高まっています。第1次伊那市総合計画に基づき平成22年度末に策定した、生涯学習の総合的な指針「生涯学習基本構想」の基本理念「共に学び、今に生かし、更に深め、未来へとつなぐ」に基づき、生涯学習事業を推進します。

(1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.17	市民大学・市民大学大学院	H30年度決算額	2,623千円
事業の目的	市民の生涯学習の機運を醸成し、生涯学習を推進するため、学習要求に応えた各種講座を開催します。			
事業内容	講座の実施 ・芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	【市民大学】開設二十年目を迎え、様々な分野での学習探究の場として幅広く、充実した講座を展開しています。今後も自主運営を活発に行いながら、講座内容の充実を図ってまいります。			
	平成30年度 講座内容			
	JICA国際協力出前講座「海外派遣での活動体験から」（講師：竹内 岳）			
	「トークと語りべの世界」（講師：美咲蘭）			
	「黒田人形芝居公演」（公演：黒田人形保存会）			
	信大出前講座「地形・地質が語る大地の生い立ち」（講師：竹内 欣宏）			
	「野草講座」（講師：柄山祐希）			
	「伊那市の教育」～伊那市の教育的風土について～（講師：笠原 千俊 副学長）			
	「市政よもやま話」（講師：白鳥孝 学長）			
	「井上井月の魅力」（講師：堀井 正子）			
	「まるごと元気体操」（講師：山岸 洋子）			
	「けもかわProject」～いのちをいただく～女性の視点で（講師：井野 春香）			
	「脳活性化に役立つコミュニケーションゲーム」（講師：竹中 雅幸）ほか15講座 計26講座			
【参考】第二十期 後期 学生数143人 12講座 第二十一期前期 学生数132人 14講座				
【市民大学大学院】市民大学の修了者を対象に、さらに学習を深めていただく専門的な学びの場として2つのコースを用意し、第四期後半及び第五期前半を開講しました。伊那市の発展のため行動できる地域のリーダーとなる人材の育成を目指します。				
平成30年度 研究内容				
歴史コース : 高遠の風土と歴史的伝統とは、進徳館教育で育った人々は ほか				
自然科学コース：里山の植生・特殊地域の植物、セツブンソウ ほか				
【参考】第四期後期 歴史コース 6人6講座 自然科学コース 5人5講座 第五期前期 歴史コース 6人7講座 自然科学コース 4人5講座				
事業の課題及び方向性	【課題】変化する社会に適応できる力をつけるために、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。修了者の地域貢献の推進が必要です。 【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。			
自己評価	b			

事務事業	No.1 8	桜大学	H30 年度決算額	557 千円
事業の目的	生活にうらおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習を推進します。			
事業内容	講座の開催（4月29日～1月26 会場：やますそ）			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、40回目を迎えた伝統ある住民の学習の場です。			
	平成30年度講座内容（講師）			
	「土津霊神の碑文を読む」～名君保科正之公の生涯～（猪苗代の偉人を考える会 会長 江花 俊和 氏）			
	「福島県南部の高遠石工の足跡＝旅稼ぎ高遠石工小松利平・弟子寅吉と小林和平の石造物＝」（福島県石川町郷土史家 吉田 利昭 氏）			
	「高遠と学び 一文化のまち高遠をつくる」（長野県立歴史館 館長 笹本 正治 氏）			
	「論語を通して学ぶ喜びを知る ー「學則得」の心を読むー」（教育者・安岡定子事務所代表 安岡 定子 氏）			
	【参考】受講者数542人（H26:610人 H27:640人 H28:550人 H29:710人）			
事業の課題及び方向性	【課題】 講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】 長年開催され、高遠町地域における生涯学習の場として定着しており、合併後、市民大学との共催講座なども実施し、伊那、長谷地域からの参加者も増えています。地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした運営を行います。また、経費についても工夫しながら事業を進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.1 9	長谷生涯学習講演会	H30 年度決算額	465 千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催（11月10日 会場：長谷公民館 講堂） ・公民館・小中学校・小中学校PTAが共催し、著名な講師を招き講演会を開催しています。			
達成状況	平成30年度			
	講演 年中夢求（タレント・ラジオパーソナリティー 松山三四六 氏） 人が生きていくためには「自己肯定感」と、自分はだれかのためになっているという「自己有用感」が大切とし、これら二つの要素は地域にとっても非常に重要なこととお話いただきました。			
	「住む人が少なくなってきたといって、諦めてはいけません。諦めなければ元気を生み出すいろんなアイデアが生まれる」と、地域づくりへの熱いエールとなる講演でした。			
	【参考】受講者数280人（H28:80人 H29:130人）			
事業の課題及び方向性	【課題】 講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】 過疎化や高齢化が進む地域においても住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
自己評価	b			



講師の 松山三四六 さん



長谷生涯学習講演会の様子

(2) 公民館活動の推進

事務事業	No.20	集会施設整備事業補助	H30 年度決算額	3,695 千円	
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。				
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。				
	・対象施設及び交付基準				
	施設区分	事業区分	補助要件等		
	公民館の分館 又は区が管理 運営する集会 施設	新築	補助率 工事費の 25%以内 補助限度額 最高 750 万円まで 最低事業費 100 万円以上		
		増築・改築・ 改修	補助率 工事費の 25%以内 補助限度額 最高 120 万円まで 最低事業費 50 万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の 30%以内 補助限度額 最高 150 万円まで 最低事業費 50 万円以上		
		外構整備・ 舗装	補助率 工事費の 25%以内 補助限度額 最高 120 万円まで 最低事業費 50 万円以上		
	町内会・常会・ 組等が管理運 営する集会施 設	新築・増築	対象外		
		改築・改修	補助率 工事費の 25%以内 補助限度額 最高 50 万円まで 最低事業費 25 万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の 30%以内 補助限度額 最高 60 万円まで 最低事業費 25 万円以上		
外構整備・ 舗装		補助率 工事費の 25%以内 補助限度額 最高 50 万円まで 最低事業費 25 万円以上			
達成状況	○集会施設の公共性を考慮し、対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 9件 3,695 千円 (H29: 9件 4,911 千円) ○平成 23 年度から、合併前の 3 市町村の交付要綱を統一した、新要綱を運用しています。				
事業の課題及び方向性	【課題】地元要望がある施設については計画的に改築等を進める必要があります。 また、他の同様な補助事業主管課との調整が必要です。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保などに資する事業であるため、予算の範囲内で計画的に費用の一部を補助します。				
自己評価	b				

事務事業	No.2 1	公民館建設（施設管理）	H30 年度決算額	40,083 千円
事業の目的	地域の生涯学習の拠点整備や地域コミュニティの形成など地域づくりを推進するため、老朽化した公民館を計画的に建て替えます。 また、公民館の施設維持に必要な改修等を行いません。			
事業内容	○施設改築 公民館の建て替え整備について順次計画を策定 ○施設改修等			
達成状況	○本年度は、西春近公民館の建設計画について内部検討を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化した西春近公民館を整備する必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら計画的に整備を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.2 2	公民館共同事業	H30 年度決算額	7,006 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市的に図るため、未就園・未就学の子ども、小学生とその家庭などを対象に、9 公民館が共同して子ども向けの事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、地域理解を深めるため「ふるさと講座」を開催し、公民館活動への理解を深めてもらうため広報誌を発行します。			
事業内容	○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達成状況	各事業への参加者は多く、集団の中で異年齢の子どもたちは「体験」を通して多くを学び、それぞれの事業目的が達成されています。 ・「ふるさと講座」（東春近公民館 約 100 人、富県公民館 約 80 人） ・84 分館に活動委託 ・館報毎月発行第 475 号～第 486 号			
事業の課題及び方向性	【課題】児童の居場所づくりや、「体験」「子ども主体の活動」の場としてニーズが高い事業であるため、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 また、連携の目的や効果を検討し、事業の企画や運営を行う必要があります。 【方向性】縦社会の再構築を願って「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について公民館全体で共同事業として取り組みます。また、支援ボランティアの確保を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.23	公民館事業	H30年度決算額	109,433千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいづくりや地域づくりを推進するため、市内9公民館において、教室・講座・イベントなどを開催します。			
事業内容	高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催			
達成状況	各地域の特色や住民要望に応えた公民館活動が行なわれ、生涯学習の推進と地域づくりの役割を果たしています。			
	公民館	平成30年度活動内容(特徴的なもの)		
	伊那	夏休みおいで塾、らっこルーム、女性教室、伊那おやじの会、高齢者教室、市民ガーデニング講座、元旦ジョギング、野草講座、探鳥会など		
	富県	夏休み富県おいで塾、こども書道教室、トムキャロット、のどか学級、高鳥谷山区民ハイキング、いきもの探検隊、俳句教室、うたの教室など		
	美篁	おいで塾宿泊学習、親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、場広山ハイキング、史跡探訪の会、童謡・唱歌の集い、野草教室、トリムバレー大会など		
	手良	わいわいくらぶ、俳句教室、手良おいで塾、野草講座、四ツ葉の会、手良の歴史講座、手良地区ハイキングなど		
	東春近	こども体験教室、楽生学級、女性教室、くれよんクラブ、チャレンジおっこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、森の音楽祭、東春近ハイキングなど		
	西箕輪	わんぱく親子塾、通学合宿、脳イキイキ出前講座、夏・秋・冬の自然観察会、高原マラソン大会、星空観察会、紅葉教室、料理教室など		
	西春近	西春近てらこや塾、出前講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、女性トリムバレーボール大会、文化祭、趣味の会発表会など		
	高遠	進徳館夏の学校、高遠中学校通学合宿、美術館・歴史博物館を訪ねて、高遠の美しさを訪ね求める講座、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、南アルプスジオパーク講座、ふれあいスポーツクラブ、各種球技大会など		
	長谷	はせっこサマースクール、入野谷講座、戸台の化石学習会、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、女性教室、スラックライン、うたのラウンジなど		
共同	キッズ王国			
	【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数 171,348人 (H28:170,318人、H29:170,542人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。</p> <p>【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。</p> <p>(2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。</p> <p>(3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。</p>			
自己評価	b			

(3) 図書館の充実

事務事業	No.24	蔵書管理	H30年度決算額	10,273千円																																																			
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																																						
事業内容	○図書館資料の管理（選書、発注、装備・登録・修理、除籍） ○書架配置換え・案内表示の更新 ○図書館システムの維持・管理																																																						
達成状況	<p>優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。</p> <p>○平成30年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムデータの更新、保守、管理を行い、適正な運用に努めました。（伊那・高遠） ・諸資料の購入・整備、利用者への貸出・閲覧を行いました。（伊那・高遠） ・資料を有効活用するため、テーマ展示を定期的に行いました。（伊那・高遠） <p>【参考】 蔵書数は図書のみ、（ ）内H29</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数（個人）</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td> <td>219,895 (218,717)</td> <td>329,636 (348,831)</td> <td>55,346 (54,441)</td> <td>70,864 (73,214)</td> </tr> <tr> <td>高遠町図書館</td> <td>95,324 (95,061)</td> <td>42,333 (45,208)</td> <td>6,673 (6,630)</td> <td>9,293 (9,471)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・他市町村比較表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口一人当たり 蔵書冊数（冊）</th> <th>人口一人当たり 貸出冊数（冊）</th> <th>登録率％ （登録者数／人口）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那市</td> <td>6.0</td> <td>7.1</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根市</td> <td>5.5</td> <td>6.1</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>辰野町</td> <td>4.3</td> <td>3.5</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>箕輪町</td> <td>2.7</td> <td>4.1</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>飯島町</td> <td>7.9</td> <td>4.8</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>南箕輪村</td> <td>5.9</td> <td>7.7</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>中川村</td> <td>14.1</td> <td>6.6</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>宮田村</td> <td>7.2</td> <td>4.8</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table>				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	219,895 (218,717)	329,636 (348,831)	55,346 (54,441)	70,864 (73,214)	高遠町図書館	95,324 (95,061)	42,333 (45,208)	6,673 (6,630)	9,293 (9,471)		人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）	伊那市	6.0	7.1	96	駒ヶ根市	5.5	6.1	48	辰野町	4.3	3.5	86	箕輪町	2.7	4.1	58	飯島町	7.9	4.8	100	南箕輪村	5.9	7.7	54	中川村	14.1	6.6	113	宮田村	7.2	4.8	84
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数																																																			
伊那図書館	219,895 (218,717)	329,636 (348,831)	55,346 (54,441)	70,864 (73,214)																																																			
高遠町図書館	95,324 (95,061)	42,333 (45,208)	6,673 (6,630)	9,293 (9,471)																																																			
	人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）																																																				
伊那市	6.0	7.1	96																																																				
駒ヶ根市	5.5	6.1	48																																																				
辰野町	4.3	3.5	86																																																				
箕輪町	2.7	4.1	58																																																				
飯島町	7.9	4.8	100																																																				
南箕輪村	5.9	7.7	54																																																				
中川村	14.1	6.6	113																																																				
宮田村	7.2	4.8	84																																																				
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 市民の「知の拠点」として、多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。</p> <p>【方向性】 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的に行ないます。また、イベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。</p>																																																						
自己評価	b																																																						

(4)生涯学習センターの充実

事務事業	No.27	生涯学習センター	H30年度決算額	93,424千円																								
事業の目的	市民に生涯学習の機会を提供するとともに、中心市街地の活性化と活力あるまちづくりを推進するため、生涯学習センターを適正かつ円滑に管理運営します。																											
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○施設管理 生涯学習センター部分は直営で管理し、ビル共用部分は共益費を負担して「いなっせ管理組合」が管理 ○貸し館業務 ○自主事業の運営 																											
達成状況	<p>利用者数が減少傾向にあるものの、自主事業などに多数の参加があり、貸し館としての役割も高く、中心市街地の誘客に繋がっています。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">平成30年度 自主事業 (内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">芸術文化体験教室 (刻字、クラシックバレエ、茶の湯 (表千家) ほか19講座)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回伊那谷伝統文化公演 (天竜村霜月神楽 坂部の冬まつり)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>音楽公演事業 (「長尾春花ヴァイオリンリサイタル」ほか9事業)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか8事業)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>青少年音楽事業 (「第13回 小さな芽コンサート」ほか5事業)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軒下コンサート (ユカイナ♪ソナタ ほか1団体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主企画教室 (井月さん入門講座ほか16 ほか16講座)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主企画イベント (春休み子ども人形劇場、明治150年記念講演)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>自主講座参加者人数 354人 (H28:379、H29:577人)</p> <p>【貸し館】利用室数 9,847コマ (H28:9,244、H29:9,227コマ)</p> <p>利用者数 155,292人 (H28:148,196人、H29:143,837人)</p> <p>各室平均稼働率 57.5% (H28:55.8、H29:55.5%)</p>				平成30年度 自主事業 (内容)		芸術文化体験教室 (刻字、クラシックバレエ、茶の湯 (表千家) ほか19講座)		第15回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)		第14回伊那谷伝統文化公演 (天竜村霜月神楽 坂部の冬まつり)		音楽公演事業 (「長尾春花ヴァイオリンリサイタル」ほか9事業)		四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか8事業)		青少年音楽事業 (「第13回 小さな芽コンサート」ほか5事業)		大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室		軒下コンサート (ユカイナ♪ソナタ ほか1団体)		語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)		自主企画教室 (井月さん入門講座ほか16 ほか16講座)		自主企画イベント (春休み子ども人形劇場、明治150年記念講演)	
平成30年度 自主事業 (内容)																												
芸術文化体験教室 (刻字、クラシックバレエ、茶の湯 (表千家) ほか19講座)																												
第15回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)																												
第14回伊那谷伝統文化公演 (天竜村霜月神楽 坂部の冬まつり)																												
音楽公演事業 (「長尾春花ヴァイオリンリサイタル」ほか9事業)																												
四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか8事業)																												
青少年音楽事業 (「第13回 小さな芽コンサート」ほか5事業)																												
大野利可 篠笛講座 飯島瀬里香 チェロ教室																												
軒下コンサート (ユカイナ♪ソナタ ほか1団体)																												
語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)																												
自主企画教室 (井月さん入門講座ほか16 ほか16講座)																												
自主企画イベント (春休み子ども人形劇場、明治150年記念講演)																												
事業の課題及び方向性	<p>【課題】学習及び文化活動を通し市民相互の交流を促進するとともに、中心市街地の活性化に効果のある施設の運用について、更に検討する必要があります。</p> <p>【方向性】利用者ニーズにあった自主事業を推進します。また、開館日数、開館時間など利用者の利便を図るとともに、利用者の意見を反映させることができる管理運営方法について検討を進めます。</p>																											
自己評価	b																											



絵本作家ワークショップ
(伊那図書館)



かつぱの料理教室「端午の節句」
(生涯学習センター)

(5) 人権同和教育の推進

事務事業	No.2 8	社会人権同和教育	H30 年度決算額	2,208 千円
事業の目的	人権問題に対する理解を促進し、全ての人の基本的人権を尊重するため、人権問題について学習する機会を提供します。			
事業内容	<p>人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同和問題や性別などの問題も含め、人権問題についても学習する機会を提供します。 ・人権同和教育講座の開催 ・人権同和教育指導案集増頁作成 			
達成状況	<p>公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。少数者への理解として、LGBT など講話に取り入れました。</p> <p>【参考】講演会 6 回・931 人 (H28: 3 回・995 人、H29: 3 回・1,480 人) 公民館人権講座 11 回・411 人 (H27: 11 回・343 人、H28: 12 回・366 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】同和对策関係特別措置法は失効しましたが、基本的人権を尊重し、同和問題のみならず、社会の急激な変化に伴う全ての差別を防止する必要があります。</p> <p>【方向性】市民の重要課題として、人権教育の場や情報の提供など、啓発活動を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.2 9	学校人権同和教育	H30 年度決算額	411 千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの特徴に応じて、教育活動全体を通じて計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てます。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催（委員長・副委員長・委員各学校 1 名） ○副読本「あけぼの」配布（小学 1・3・5 年生、中学 1 年生）（学校据置） ○人権教育講演会等の実施 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践しました。 ○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 4 回 学社連携による推進会議（2 回）、職員研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催 ○平成 28 年度に作成した「伊那市人権同和教育学習指導案集」の増頁を行い、小中学校における人権同和教育に活用しました。 ○人権同和教育副読本「あけぼの」を小学校 1・3・5 年生、中学校 1 年生に配布し活用しました。 ○人権同和教育研修会を小学校 4 校、中学校 2 校で実施しました。 			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】経済状況の悪化、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。</p> <p>【方向性】教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等の取組を通じ、豊かな人間性の育成に努めます。</p>			
自己評価	b			

2-2：青少年健全育成と家庭教育の充実

青少年の健全育成に向けて、地域で青少年を育てる環境づくりを進め、あわせて学校、行政、地域一体となった家庭教育の充実策に取り組みます。

(1) 青少年の健全育成

事務事業	No.30	学童クラブ	H30年度決算額	74,615千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小、伊那東小、伊那北小、伊那西小、富巣小、新山小、美篤小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の15校に開所			
達成状況	入所者が多い伊那小・伊那東小は3クラブ、伊那北小・美篤小・東春近小・西箕輪小学童クラブは2クラブ体制で対応しています。 学童クラブエアコン設置工事 10,065千円 高遠小学童クラブほか整備工事 実施設計委託 1,058千円 学童クラブ指導員キャリアアップ賃金処遇改善事業 1,416千円 【参考】学童クラブ23箇所 (H28:21箇所、H29:22箇所) 入所者数631人 (H27:528人、H28:582人、H29:621人) クラブ設置小学校数/小学校数100% (H28:100%、H29:100%) 入所者数/児童数17.3% (H28:15.3%、H29:17.0%)			
事業の課題及び方向性	【課題】保護者の就労支援や児童の健全育成のためニーズが高まっています。 【方向性】大規模クラブの解消(分割)や老朽・狭隘施設の整備、開所日数の拡充、指導員の確保など学校や地域等と連携を図りながら課題を解決し、事業の充実を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.31	少年補導委員会・少年補導センター	H30年度決算額	814千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図り、街頭補導などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55人を11班に編成し、毎週土曜日と第3日曜日に街頭補導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭補導を実施(補導日数77日) ・補導の手引きの作成			
達成状況	街頭補導による指導件数は減少傾向にあり、補導活動が非行防止の一助となっています。この指導件数の減少を踏まえ、指導方針について検討を行いました。 【参考】補導活動延べ人員276人 (H28:354人、H29:271人) 声かけ件数196件 (H28:444件、H29:315件) 指導件数0件 (H28:0件、H29:0件)			
事業の課題及び方向性	【課題】特にソーシャルメディアに関連し、子どもを非行へ誘惑する要因が増えるとともに、子どもの規範意識が薄くなっています。 【方向性】少年を取り巻く環境は多様化しており、少年の健全育成を図るため、引き続き補導委員会を中心に地域が子どもを見守る体制づくりを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.32	青少年育成対策	H30年度決算額	2,807千円
事業の目的	青少年の健全育成事業を推進するため、各地区34子ども会・育成会が行う各種事業を支援します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動 ○子どもの安全、有害環境の排除 ○よりよい教育環境推進協議会などへ参画 ○わんぱく広場の開催 ○情報紙「えがお」の発行 			
達成状況	<p>子どもにかかわる組織として地域に定着しており、各地域の実情に応じた活動を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成30年度各地区育成会実施事業 <ul style="list-style-type: none"> 有害環境チェック活動（7,2月）、「信州あいさつ運動」への取組、魚つかみ大会、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等 			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 地域全体で子どもを育てるという環境整備が求められています。</p> <p>【方向性】 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っています。しかし、地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題も生じているため、委託料について見直しを進めます。</p>			
自己評価	b			



伊那市少年補導委員会

事務事業	No.33	成人式	H30年度決算額	1,066千円
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を執り行います。			
事業内容	成人式を公民館単位の10地区で実施			
達成状況	平成21年度から伊那地域においても公民館単位での実施に変更しました。 【参考】()内H29			
	地区	実施日	対象者	出席者
	竜西	8月15日	152人 (137人)	100人 (101人)
	竜東	8月15日	233人 (217人)	146人 (144人)
	富県	8月15日	24人 (26人)	17人 (18人)
	美篁	8月15日	76人 (70人)	52人 (54人)
	手良	8月14日	35人 (31人)	27人 (25人)
	東春近	8月15日	75人 (80人)	55人 (63人)
	西箕輪	8月15日	76人 (82人)	55人 (49人)
	西春近	8月15日	76人 (68人)	67人 (51人)
	高遠町地区	1月2日	52人 (65人)	47人 (53人)
	長谷地区	1月1日	16人 (15人)	12人 (12人)
※伊那地区(竜西～西春近)		計	69.5%	(H28: 72.5%、H29: 71.0%)
		合計	70.9%	(H28: 72.9%、H29: 72.1%)
事業の課題及び方向性	<p>【課題】開催方法、時期等を含めて、新成人にとってより良い成人式とは何かを検討し、実施する。</p> <p>【方向性】「伊那市成人式のあり方検討委員会」の結果からこれまでどおり分散形式とし、伊那市成人式として一体感を持てるよう、記念品、パンフレット等できることから統一していく。</p>			
自己評価	b			



伊那市成人式(竜西地区)



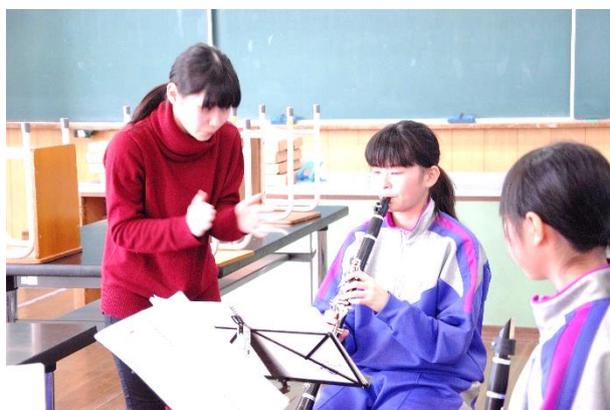
平成30年度記念品(印鑑ケース)

2-3：文化の振興

文化芸術施設の整備及び充実を図り、文化芸術の鑑賞機会の充実や意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

(1)文化事業などの充実

事務事業	No.34	伊澤修二記念音楽祭	H30年度決算額	6,414千円
事業の目的	伊澤修二先生を顕彰するとともに、東京藝術大学との交流を通し、地域文化の振興を図ります。			
事業内容	<p>○伊澤修二記念音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高遠町出身で東京藝術大学の前身である東京音楽学校の初代校長を務めた伊澤修二先生を顕彰する音楽祭。昭和62年の東京藝術大学創立百周年を機に、旧高遠町で第1回が開催され、秋恒例の音楽祭となっています。 <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会を開催します。 <p>○小中学校アウトリーチ、邦楽指導、若手演奏家支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の楽しさに触れるアウトリーチ、高遠囃子の指導、地元出身の若手演奏家の出演機会の創出など、様々な事業を実施しました。 			
達成状況	東京藝術大学との音楽交流や日頃の練習の成果を発表する機会の創出が図られました。藝大関係者を含む音楽祭関係者同士がより交流を深めました。小中学校アウトリーチ（参加者260人）、邦楽指導（参加者76人）、若手演奏家支援（登録者9人、出演イベント7回、観覧者470人）を実施し、多くの市民が音楽祭への関心を深めました。 【参考】音楽祭入場者数1,800人（H28:2,150人、H29:2,000人）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】伊澤修二先生を縁とする東京藝術大学とのつながりを大切に、地域文化の振興に活かす必要があります。</p> <p>【方向性】東京藝術大学の優れた音楽に触れ、また市内中学生が指導を受けるよい機会になっています。伊那市固有の音楽祭として発展させるため、積極的なPRを図っていきます。</p>			
自己評価	a			



吹奏楽の演奏指導を受ける（器楽講習会）



出演する若手演奏家（若手演奏家支援事業）

事務事業	No.35	い〜な音楽祭	H30年度決算額	260千円
事業の目的	コーラスグループを中心に合唱の発表機会を提供し、音楽を通じた相互交流を深めます。			
事業内容	○い〜な音楽祭 2018 開催 ・各音楽団体の代表者により構成された実行委員会が運営し、一般や学校関係団体から参加を募り、一般市民の入場も呼びかけて県伊那文化会館で開催される市内合唱グループの発表会			
達成状況	実行委員自らの企画運営により、互いの参加団体が協力し合いながら、費用をかけずに充実した音楽祭の開催を図ることができました。 【参考】参加団体数 26 団体 (H28:25 団体、H29:21 団体)			
事業の課題及び方向性	【課題】身近な発表の場として、参加しやすい運営に努める必要があります。参加団体の増加に対応し、運営方法の検討を進める必要があります。 【方向性】今後も息の長い音楽祭となるよう、実行委員会の組織の充実と事業内容の充実を図ります。25 年度から参加団体が順番で事務局を務めています。			
自己評価	b			

事務事業	No.36	市民音楽祭	H30年度決算額	1,100千円
事業の目的	市民に良質な音楽と発表する場を提供するため、市民が企画し参加する音楽祭を開催します。			
事業内容	①ふるさと芸能祭 ②クラシック音楽の祭典(旧手づくりの演奏会)の2事業を隔年で実施します。 平成26年度事業 手づくりの演奏会「カルミナ・ブラーナ」 平成27年度事業 伊那節大会2015/ふるさと芸能祭 手づくりの演奏会「第九演奏会」(開催準備補助) 平成28年度事業 手づくりの演奏会「第九演奏会」 平成29年度事業 伊那節大会2017/ふるさと芸能祭 クラシック音楽の祭典(開催準備補助) 平成30年度事業 クラシック音楽の祭典			
達成状況	内容などによって参加者の増減がありますが、良質な音楽を提供する音楽祭として定着してきています。市民が企画、出演する手づくりの音楽祭です。 【参考】クラシック音楽の祭典 入場者 1,000人			
事業の課題及び方向性	【課題】市民音楽祭の目的である「手作り」「良質な音楽の提供」を基本に、特色ある運営をする必要があります。 【方向性】市民が企画し、参加する音楽祭、良質な音楽の提供を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.37	千両千両井月さんまつり 信州伊那井月俳句大会	H30 年度決算額	1,215 千円
事業の目的	伊那市を終焉の地とした漂泊の俳人井上井月を偲び、末永く顕彰するとともに、日本の伝統文化である俳句に親しみ、楽しんでもらうため、俳句大会を開催します。 また、俳句愛好者以外にも井月を広め、地域活性化に繋げることを目的に、大会にあわせ、井上井月顕彰会と連携し、千両千両井月さんまつりを開催します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第27回信州伊那井月俳句大会の開催 実行委員会を中心に俳句大会を企画・開催し、事前に募集した小中学生及び一般からの投句の中から、入賞作品の発表・表彰を行います。 ・シンポジウム「井月さんの時代を知る！幕末維新伊那街道の夜明け」、演奏会「旅する音楽」、井月関連展示、物販ほか 			
達成状況	井月愛好者、俳句愛好者等により構成するまつり実行委員会と、俳句大会実行委員会が協働し、『まつり』要素を取り入れて実施した。 【参考】俳句大会 投句数6,707句 (H28:5,662句、H29:6,183句) 一般参加者数120人 (H28:180人、H29:150人) その他まつり シンポジウム100人、演奏会「旅する音楽」100人ほか			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】俳人井上井月を顕彰するとともに、俳句に親しみ、俳句の普及を図る必要があります。まつりとしての事業内容の見直し、広報等、参加者を増やす方が必要です。民間団体主体の事業運営には課題があり、今後の運営主体の検討が必要です。</p> <p>【方向性】井上井月、俳句を通じて全国的にアピールできる事業であるため、開催方法や内容を検討しながら更に発展させる必要があります。俳句以外の面からも井月に親しむことのできる「まつり」の民間主導による運営の可能性を検討します。</p>			
自己評価	b			



シンポジウムの様子 (井月さんまつり)



子ども向け体験講座 (井月俳句大会)

事務事業	No.38	進徳館の日	H30年度決算額	356千円
事業の目的	進徳館教育から先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月26日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（5月26日 会場：高遠町文化体育館）			
達成状況	<p>実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。また、旧高遠藩主をはじめ、藩関係者との交流の機会ともなっている。</p> <p>○平成30年度 第24回進徳館の日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五聖像に礼拝 ・式典 ・基調講演 高遠小学校 北村 勝行校長「地域との深いつながりの中で 地域を学び地域と共に育つ高遠っ子」 ・実践報告 高遠小学校 田村 栄作教諭「グループホームとの交流から学んだこと」 ・学習発表 高遠高等学校 福祉コース3年生「高遠城址公園福祉マップ」 ・記念講演 「中村弥六が創った進徳の森から伊那市の森林を読む」 講師 小山 泰弘氏（長野県林業総合センター 林業専門技術員） <p>【参考】参加人数 250人（H25:200人 H26:150人 H27:150人 H28:200人 H29:250人）</p> <p>○平成30年度 第20回進徳館の日記念少年剣道大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20回記念大会として上伊那郡内から募集し併せて個人戦（193人）も実施 <p>【参考】参加数 42チーム（H26:35チーム H27:35チーム H28:39チーム H29:38チーム）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行なう必要があります。</p> <p>【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と面的な拡大を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.39	伊那能	H30年度決算額	475千円
事業の目的	日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ機会を提供します。			
事業内容	「能」「狂言」公演の開催 ・平成2年に第1回を民間との協働により開催し、伊那市と県伊那文化会館が隔年で支援し、中学生の希望者を無料で招待しています。			
達成状況	<p>演目などにより入場者数の増減はありますが、日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ良い機会となっています。今回、能楽師による小学校「能楽出張講座」を初めて実施しました。</p> <p>○第27回伊那能</p> <p>【参考】入場者数 730人（H28:610人、H29:630人） 出張講座 東春近小 200人</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】日本の伝統芸能である「能」と「狂言」を鑑賞できる貴重な機会であり、継続のためには、分かりやすい内容で底辺の拡大を図る必要があります。</p> <p>【方向性】実施主体である民間との協働を基本に、分かりやすいものになるように鑑賞講座、ワークショップなどを取り入れながら、県伊那文化会館とも連携し継続開催に努めます。</p>			
自己評価	b			

(2)博物館などの整備・活用

事務事業	No.40	創造館	H30年度決算額	49,382千円																
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理・運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関するユニークで独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。																			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会、講座等の開催 ○ 展示関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展、企画展2回、特別展2回 ○ 貸館業務 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習室、体験教室1、体験教室2、講堂 ○ 資料の保管 		マスコットキャラクター 「つくルン」																	
達成状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">平成30年度 事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【講演会】 御子柴遺跡発掘60周年記念講演会 参加者 120人</td> </tr> <tr> <td>【音楽イベント】 平澤真希オルガンピアノコンサート 参加者 180人</td> </tr> <tr> <td>【講座等】 宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 延参加者 794人</td> </tr> <tr> <td>【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)</td> </tr> <tr> <td>【企画展展示】</td> </tr> <tr> <td>第21回企画展(明治150年「学校のはじまり・はじめて博覧会」)</td> </tr> <tr> <td>特別展(御子柴遺跡発掘60周年記念展)</td> </tr> <tr> <td>特別展(すばらしき伊那の大地と自然展)</td> </tr> <tr> <td>特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(5))</td> </tr> <tr> <td>特別展(宮島功写真展 石仏師「守屋貞治」) 延観覧者 18,335人</td> </tr> <tr> <td>収蔵物貸し出し(神子柴遺跡出土石器・顔面付釣手形土器等:東京国立博物館)</td> </tr> <tr> <td>収蔵物貸し出し(顔面付釣手形土器・顔面把手付大深鉢:パリ日本文化会館)</td> </tr> <tr> <td>【貸館】 延利用者 14,889人</td> </tr> <tr> <td>【参考】 H30 開館日数 305日、利用者数 48,344人</td> </tr> <tr> <td>H29 開館日数 305日、利用者数 44,752人</td> </tr> </tbody> </table>				平成30年度 事業内容	【講演会】 御子柴遺跡発掘60周年記念講演会 参加者 120人	【音楽イベント】 平澤真希オルガンピアノコンサート 参加者 180人	【講座等】 宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 延参加者 794人	【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)	【企画展展示】	第21回企画展(明治150年「学校のはじまり・はじめて博覧会」)	特別展(御子柴遺跡発掘60周年記念展)	特別展(すばらしき伊那の大地と自然展)	特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(5))	特別展(宮島功写真展 石仏師「守屋貞治」) 延観覧者 18,335人	収蔵物貸し出し(神子柴遺跡出土石器・顔面付釣手形土器等:東京国立博物館)	収蔵物貸し出し(顔面付釣手形土器・顔面把手付大深鉢:パリ日本文化会館)	【貸館】 延利用者 14,889人	【参考】 H30 開館日数 305日、利用者数 48,344人	H29 開館日数 305日、利用者数 44,752人
平成30年度 事業内容																				
【講演会】 御子柴遺跡発掘60周年記念講演会 参加者 120人																				
【音楽イベント】 平澤真希オルガンピアノコンサート 参加者 180人																				
【講座等】 宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 延参加者 794人																				
【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財)																				
【企画展展示】																				
第21回企画展(明治150年「学校のはじまり・はじめて博覧会」)																				
特別展(御子柴遺跡発掘60周年記念展)																				
特別展(すばらしき伊那の大地と自然展)																				
特別展(伊那谷の生んだ芸術家たち(5))																				
特別展(宮島功写真展 石仏師「守屋貞治」) 延観覧者 18,335人																				
収蔵物貸し出し(神子柴遺跡出土石器・顔面付釣手形土器等:東京国立博物館)																				
収蔵物貸し出し(顔面付釣手形土器・顔面把手付大深鉢:パリ日本文化会館)																				
【貸館】 延利用者 14,889人																				
【参考】 H30 開館日数 305日、利用者数 48,344人																				
H29 開館日数 305日、利用者数 44,752人																				
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 事業の実施に際して、生涯学習センター、市立図書館、公民館等の社会教育施設との棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。子どもが興味を持ち、参加したくなるプログラムの作成が必要です。</p> <p>【方向性】 自然科学、考古、宇宙、歴史、教育等を中心にユニークで魅力ある事業の企画・運営を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、市民等が利用しやすい館の運営に努めます。</p>																			
自己評価	a																			

事務事業	No.4 1	高遠町歴史博物館	H30 年度決算額	37,980 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○歴史博物館の運営及び管理			
	○常設展示			
	展示場所	展示内容		
	桜シアター	高遠城址公園に咲く満開のタカトオコヒガンザクラの映像		
	山車展示室	貴船社・仲町の山車、鉾持神社の幟、祭の衣装など高遠の祭に関係するもの		
	第1展示室 (特別展会場となる場合あり)	高遠で発掘された埋蔵文化財 高遠城のジオラマや絵図などの高遠藩関係資料 高遠藩主内藤家の調度品、家宝の兜、古文書 絵島が囲み屋敷で過ごした間に使用したもの		
	第2展示室	藩校進徳館と「高遠の学」 阪本天山、伊澤修二、中村弥六など、地域の先人たち		
	第3展示室 (特別展会場となる場合あり)	中村不折の書画 城下町のジオラマ、中馬・杣・石工の道具など、人々の暮らし 石仏師守屋貞治 高遠焼		
絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復原屋敷を展示			
達成状況	○特別展の開催(下記)			
事業の課題及び方向性	【特別展】			
	第58回特別展 維新の激動と伊那・高遠の人々 (3月8日～6月17日)			
	第59回特別展 出征兵士と家族の肖像展 (7月28日～8月19日)			
	第60回特別展 高遠に残る武具 (10月12日～12月9日)			
	第61回特別展 上伊那郡市小中学生社会科新聞展 (10月20日～11月4日)			
自己評価	【講座】			
	歴博講座 2018 春Ⅱ、歴博講座 2018 夏、歴博講座 2019 春 参加 190 人			
	中学生講座 参加校 6 校、参加者 45 人			
	歴博古文書講座(年 5 回) 参加者数 延べ 265 人			
	【施設整備】			
自己評価	照明設備の LED 化、収蔵庫の燻蒸など			
	【その他】			
	地域文化デジタル化事業			
	【参考】			
	・年間入館者数 17,224 人 (H29: 17,561 人、H28: 14,951 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他の自治体との文化交流を図る必要があります。			
	【方向性】館の取り組みが市民から見え、皆さんの伊那の地を愛する思いに応える学習センターとしての働きを高めるため、常設展示に加え、魅力ある特別展や講座を開催します。そのためにも、アンケート等を通して得られる地域の皆さんの意見を尊重し、職員の考えを取り入れながら事業の改善を図ります。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 2	信州高遠美術館	H30 年度決算額	46,329 千円												
事業の目的	地域の方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。															
事業内容	<p>○収蔵作品展 原田政雄画伯から寄贈された 668 点の作品を中心に、地元出身の中村不折、池上秀敏、江崎孝坪の作品や、平山郁夫、中川紀元などの作家の作品を展示</p> <p>○ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</p> <p>○企画展 観桜期特別展や若手作家を支援するための若手アーティスト展などを開催</p> <p>○アートスクール 地元芸術家の指導と協力を得て、陶芸、絵画、書道などの講座を通年開催</p> <p>○ミュージアムコンサート 弦楽器やピアノなど国内外で活躍中の演奏家や、地域で活躍している演奏家によるコンサート</p> <p>○美術大学との連携事業 市内の古民家を活用し、東京藝術大学の講師・学生、地域住民とともに伊那市の魅力について考え発信する、芸術文化の拠点づくり</p>															
達成状況	<p>伊那市唯一の美術館として、芸術鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。</p> <p>○平成 30 年度企画展</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テ ー マ</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>八代亜紀絵画展 ーアートの世界ー (4月8日～5月20日)</td> <td>フランス画壇の登竜門「ル・サロン展」永久会員として、画家としても活躍している八代亜紀さんの絵画 126 点を展示しました。</td> </tr> <tr> <td>若手アーティスト展 ー現代染色の世界ー (9月8日～10月21日)</td> <td>日本の伝統工芸である染色などを用いた若手作家 5 人による展覧会を開催しました。展覧会とともにワークショップを行い、染色を身近に感じてもらいました。</td> </tr> <tr> <td>加藤邦彦・温子移住帰国展 (10月27日～12月2日)</td> <td>ドイツで活躍し、一昨年伊那市に移住した加藤夫妻の彫刻、絵画作品を美術館の内外に展示しました。併せて、伝統的な石版画技術を体験するワークショップを開催しました。</td> </tr> <tr> <td>竹内徹とゆかりの作家展、 木内克・福沢一郎二人展 (12月8日～2月17日)</td> <td>平成 30 年 8 月に他界された信州高遠美術館の元館長で、洋画家の竹内徹氏の作品と、原田コレクションの大部分を占める木内克・福沢一郎の作品を厳選して展示しました。</td> </tr> <tr> <td>長野県信濃美術館所蔵 名品展 (2月23日～3月31日)</td> <td>新築建替えのため休館中の信濃美術館所蔵品の中から、明治から昭和期に活躍した郷土ゆかりの作家作品と、信州ゆかりの作家が描いた信州の風景作品等約 60 点を展示しました。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ミュージアムコンサート マリンバコンサート、布施雅也・石川みどりコンサート、ヴァイオリンとチェロのアンサンブル、川島成道ヴァイオリンリサイタル</p> <p>○美術大学との連携事業 高遠町塩俣の古民家を活用し、東京藝術大学の講師・学生による子どもワークショップ、住民との交流会を開催しました。</p> <p>【参考】 入館者数 16,558 人 (H28:14,294 人、H29:15,860 人) コンサート入場者 376 人 (H28:319 人、H29:169 人、)</p>				テ ー マ	内 容	八代亜紀絵画展 ーアートの世界ー (4月8日～5月20日)	フランス画壇の登竜門「ル・サロン展」永久会員として、画家としても活躍している八代亜紀さんの絵画 126 点を展示しました。	若手アーティスト展 ー現代染色の世界ー (9月8日～10月21日)	日本の伝統工芸である染色などを用いた若手作家 5 人による展覧会を開催しました。展覧会とともにワークショップを行い、染色を身近に感じてもらいました。	加藤邦彦・温子移住帰国展 (10月27日～12月2日)	ドイツで活躍し、一昨年伊那市に移住した加藤夫妻の彫刻、絵画作品を美術館の内外に展示しました。併せて、伝統的な石版画技術を体験するワークショップを開催しました。	竹内徹とゆかりの作家展、 木内克・福沢一郎二人展 (12月8日～2月17日)	平成 30 年 8 月に他界された信州高遠美術館の元館長で、洋画家の竹内徹氏の作品と、原田コレクションの大部分を占める木内克・福沢一郎の作品を厳選して展示しました。	長野県信濃美術館所蔵 名品展 (2月23日～3月31日)	新築建替えのため休館中の信濃美術館所蔵品の中から、明治から昭和期に活躍した郷土ゆかりの作家作品と、信州ゆかりの作家が描いた信州の風景作品等約 60 点を展示しました。
テ ー マ	内 容															
八代亜紀絵画展 ーアートの世界ー (4月8日～5月20日)	フランス画壇の登竜門「ル・サロン展」永久会員として、画家としても活躍している八代亜紀さんの絵画 126 点を展示しました。															
若手アーティスト展 ー現代染色の世界ー (9月8日～10月21日)	日本の伝統工芸である染色などを用いた若手作家 5 人による展覧会を開催しました。展覧会とともにワークショップを行い、染色を身近に感じてもらいました。															
加藤邦彦・温子移住帰国展 (10月27日～12月2日)	ドイツで活躍し、一昨年伊那市に移住した加藤夫妻の彫刻、絵画作品を美術館の内外に展示しました。併せて、伝統的な石版画技術を体験するワークショップを開催しました。															
竹内徹とゆかりの作家展、 木内克・福沢一郎二人展 (12月8日～2月17日)	平成 30 年 8 月に他界された信州高遠美術館の元館長で、洋画家の竹内徹氏の作品と、原田コレクションの大部分を占める木内克・福沢一郎の作品を厳選して展示しました。															
長野県信濃美術館所蔵 名品展 (2月23日～3月31日)	新築建替えのため休館中の信濃美術館所蔵品の中から、明治から昭和期に活躍した郷土ゆかりの作家作品と、信州ゆかりの作家が描いた信州の風景作品等約 60 点を展示しました。															

事業の課題及び方向性	<p>【課題】入館者数が増となりましたが、さらに文化芸術活動の振興のため、裾野を広める事業や参加しやすい事業の検討が必要です。</p> <p>【方向性】親しみやすい企画展や所蔵作品を活かした展示企画の検討、市内の文化施設や、東京藝術大学等とも連携して事業を進めます。また、魅力ある講座・教室を企画し、貸し館事業（コンサート・展覧会・結婚式等）も進めて、市民が芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を積極的に提供します。</p>
自己評価	a

第3節 文化財の保存・継承・活用

3-1：文化財の保存・継承・活用

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、保護するだけでなく、積極的に公開し、活用します。また、地域の民俗芸能を継承する活動を支援します。

(1)文化財の保存・継承・活用

事務事業	No.43	史跡高遠城跡	H30年度決算額	3,464千円
事業の目的	昭和48年に藩校進徳館を含め国指定史跡となった。それ以前の昭和35年にはコヒガンザクラ樹林が県の天然記念物に指定されており、4月の観桜期には多くの観光客でにぎわう。合併後の新伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備事業を行います。			
事業内容	・史跡高遠城跡の維持管理及び、保存管理計画等に基づき、三の丸北側斜面整備工事を行いました。			
達成状況	○ 三の丸北側斜面整備工事（人工林伐採）の実施			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】整備実施計画の短期整備計画（H17～）に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。</p> <p>【方向性】整備委員会の開催により後期整備実施計画を推進します。</p>			
自己評価	b			



池上秀敏 画「旧高遠城之真景」

事務事業	No.4 4	民俗資料館	H30 年度決算額	4,669 千円
事業の目的	市内の民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「高遠なつかし館」と、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○高遠なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内容等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みミシンなどの体験ができる。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してある。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示している。		
旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、間口5間、奥行9間の町屋造り板葺きの住宅。町屋造りの家屋としては町内で最も古く、所蔵されている古文書も多い。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めた。			
	○特別企画展示の開催（年2回） ○公民館と共催で体験講座を開催			
達成状況	○企画展 「ひなまつり展」2/2～4/24、「五月人形展」4/27～6/6 ○体験イベント ひなまつりお茶会 3/10 36人 【参考】年間入館者数4,682人（なつかし館・旧馬島家：4,066人、旧池上家：616人） （H29：6,282人、H28：4,171人）			
事業の課題及び方向性	【課題】駐車場が整備され、観桜期間中の入館者が増加しました。更に、昔を体験できる施設として広くPRし、利活用を図る必要があります。 【方向性】「観て・触って・やってみる」をモットーに、魅力ある企画展、体験講座などを実施しながら、点在する施設と周辺施設とを組み合わせた散策モデルコースを作成することにより集客できる運営に努めます。			
自己評価	b			



旧馬島家（県宝）



旧池上家（市指定文化財）

事務事業	No.4 5	旧井澤家住宅	H30 年度決算額	1,700 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理及び運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開 ・建物の概要 木造一部2階建 建築延面積 389.88 m ²			
達成状況	○平成 29 年度企画行事 「端午の節句飾り」、「雛飾りと繭玉作り講座」ほか 【参考】入館者数 1,574 人 (H29: 1,525 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】 地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を継続して進める必要があります。 【方向性】 地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できる企画について継続して見直しを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 6	民俗文化の伝承	H30 年度決算額	98 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊りの習俗」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	中尾歌舞伎などの民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援事業を行っています。			
達成状況	平成 30 年度事業 ○伝統文化親子教室事業（文化庁）を活用（7 団体） ○中尾歌舞伎春季定期公演の実施 平成 29 年 2 月の中尾歌舞伎保存会活動休止から約 1 年、長谷地域を中心とした関係者により継続的な活動を可能とする支援の在り方について検討を重ね、後援会組織の立上げ及び小中学校の関わり方や、役者の負担軽減・新規保存会員の募集などについて具体的な方向性が示された。春の定期公演を開催し、新たに歩みはじめました。 日時 平成 30 年 4 月 29 日（日） 開場：午後 0 時 30 分 開演：午後 1 時 30 分 演目 「御所桜堀川夜討 弁慶上使の段」 会場 長谷伝統文化等保存伝習施設「中尾座」 来場者：400 名			
事業の課題及び方向性	【課題】 地域の民俗文化を伝承しようとする地域の意識醸成を促す必要があります。 ○中尾歌舞伎保存会の持続的な活動を可能とするため、広い範囲での賛助会員（個人・法人）を募集し、特に資金面で安心して活動できる体制を整えることが重要です。また、保存会の世代交代を進め、新規会員や協力者の募集を継続的に行う中で、現在までの会員は指導者に回り、新規会員が演者に回るような体制づくりを構築し、継続的また長期にわたり活動できる体制づくりを模索していきます。 ○人口減少・少子高齢化が進み地域としての活力が乏しくなる中、住民が自らの生活と同じくらいに、民俗文化継承の大切さを意識できる土台づくりが急務です。時間は必要ですが、50 年後に、中尾歌舞伎が地域の活力醸成の一端を担う存在となっているため、地道な努力を積み重ねていきます。 【方向性】 有利な財源を確保しながら、人材発掘と育成を進めます。			
自己評価	b			

第4節 スポーツ・レクリエーションの振興

4-1：豊かなスポーツライフの実現

いつでも、どこでも、だれもがスポーツに親しみ、心身の健康の保持増進を図るとともに、活力ある地域社会を形成するため、生涯スポーツを推進し、市民一人ひとりの「豊かなスポーツライフ」の実現をめざします。

(1) スポーツライフの実現

事務事業	No.47	市民体育祭	H30年度決算額	1,374千円
事業の目的	伊那市におけるスポーツの振興・推進のため、市民を対象とした当該大会を開催することにより、市民のスポーツの関心を喚起し、健康増進に寄与します。			
事業内容	体育協会の各専門部が種目毎に主管となって実施し、市民に最も身近なスポーツ大会として開催しています。ホームページ等の広報を充実させ、参加者を増やす方策を講じながら、継続して開催することを目標に実施しています。			
達成状況	平成30年度の実施状況 27種目28部門（7月1日から2月17日） 参加人数3,720人（H28:4,041人、H29:3,980人） （ ）内H29			
	種目	参加者数	種目	参加者数
	ゴルフ	207(184)人	バドミントン	148(151)人
	軟式野球（学童）	240(300)人	バレーボール	300(300)人
	〃（一般）	600(420)人	バスケットボール	130(131)人
	山岳	19(19)人	ソフトボール	280(310)人
	太極拳・気功	45(48)人	ソフトテニス	144(156)人
	少林寺拳法	26(33)人	卓球	98(98)人
	ゲートボール	61(83)人	柔道	65(101)人
	硬式テニス	75(65)人	サッカー	150(170)人
	弓道	150(140)人	マレットゴルフ	55(48)人
	剣道	285(340)人	ソフトバレー	100(98)人
	陸上	64(52)人	スケート	中止(8)人
	トリムバレー	98(145)人	綱引	25(32)人
	フットサル	255(207)人	スキー	48(43)人
	海洋	中止(239)人	パターゴルフ	28(29)人
	カヌー	4(10)人	ラグビー	20(20)人
事業の課題及び方向性	<p>【課題】多くの市民が参加できるよう、競技性のみでなく、普及を念頭に置いた体験型の内容や、広報を充実させることにより参加者を増やす工夫が必要です。</p> <p>【方向性】引き続き広報等PRに努め、市民が参加しやすい大会の持ち方と初心者に参加できる種目も検討します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.4 8	総合型地域スポーツクラブ	H30 年度決算額	11,299 千円
事業の目的	スポーツの振興及び市民の健康増進・体力向上を図ります。			
事業内容	総合型地域スポーツクラブの活動支援 ・スポーツ教室の開催、各種イベント・大会の開催			
達成状況	<p>市民が手軽にスポーツを楽しむことができるスポーツクラブとして、各種イベントや教室の開催を通じ、会員の登録数が着実に増えてきています。</p> <p>通年開催の講座は 100 を超えており、スポーツ以外の分野の教室も開催しています。これは、スポーツに関心のない市民にとって、新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとなることへの期待や、多くの会員を確保しクラブの経営を安定させるなどの目的があり、先進的な取り組みと評価されています。</p> <p>平成 30 年度も市からの委託事業で、各スポーツ団体向けに指導者スキルアップ講座を開催しました。また、平成 30 年度から市で地域おこし協力隊を導入し、市とクラブが連携して市民のスポーツ振興、健康増進、介護予防への取り組みを充実しています。</p> <p>また、体育施設利用料金に対し、交付金を交付して支援を行っています。</p> <p>今後、伊那市の生涯スポーツ振興の中心を担う存在となることが期待されています。</p> <p>【参考】 クラブ登録会員数 3,819 人 (H28:3,314 人、H29:2,974 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 地域ニーズにあった各種事業を実施する必要とともに、クラブの維持可能な組織・運営体制についての検討が必要です。</p> <p>【方向性】 各種大会、教室の開催などを通じて、多くの市民がスポーツに親しめるように、クラブの運営を支援します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.4 9	春の高校伊那駅伝	H30 年度決算額	12,740 千円
事業の目的	長野県内の陸上長距離競技のレベルアップ及び振興を図るとともに、観光や合宿等の集客や伊那市の PR を行います。			
事業内容	春の高校伊那駅伝の実施 ・実行委員会の運営 ・関連団体や関係機関及び参加校等との連絡調整全般			
達成状況	<p>全国から注目を集める大会に成長し、男女合わせて 190 校がエントリーしました。当日は 168 チームと多くの学校が参加し、大会の充実が図られました。好天に恵まれ、応援運動やイベントなども盛り上がりを見せ、沿道からたくさんの市民に応援していただき、市民とともに作り上げる駅伝となっています。今大会も、BS 放送による全国放送を行いました。</p> <p>また、伊那市の魅力発信・合宿誘致についても、機会を得て合宿ガイドや観光パンフレットを送付し、取り組みを進めています。今大会でも、農家民泊の利用を案内し、2 校が宿泊しました。</p> <p>【参考】 エントリー数 1,649 人 (H28 : 1,855 人、H29:1,684 人) 出場数 168 チーム (H28:177 チーム、H29 : 175 チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 陸上競技の普及・振興とともに、伊那市の PR にきわめて有効な事業であるため、観光 PR や合宿誘致等も念頭におき、「駅伝のまち」として大会を充実させる必要があります。また、参加校が増えたことから、引き続き安全な大会となるよう交通規制等について常に見直しを行う必要があります。</p> <p>【方向性】 実行委員会を中心に、魅力ある安全な大会運営を進めます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.50	ソフトボールの振興	H30年度決算額	300千円
事業の目的	ソフトボールのまち「伊那市」として、毎年継続的に全国規模の大会を開催することにより、市民にハイレベルな試合観戦の機会を提供しています。			
事業内容	○全国規模の大会の開催 ○長野県ソフトボール協会へ大会補助金交付			
達成状況	○平成30年度については、次の大会を伊那市で開催することができました。 ・第51回日本女子ソフトボール1部リーグ第6節長野大会 入場者数 約2,500名 (平成30年9月8日(土)～9日(日)) また、4月に開催されている伊那市ソフトボール協会主催の「全国ハイシニア信州伊那さくら大会」は7回目を数え、スーパーハイシニアの部を加え全国から大勢の参加があります。 ○小学生女子チーム「アルプスイーナちゃんクラブ」も、継続的な活動をしています。			
事業の課題及び方向性	【課題】全国大会の誘致と、競技人口の拡大を図る必要があります。 【方向性】引き続き全国規模の大会誘致と運営経費の見直しを行なうとともに、ソフトボール教室の開催や指導者の育成など、将来に向けて競技人口の拡大ができるよう、ソフトボール協会を支援します。			
自己評価	a			

事務事業	No.51	体育施設の整備	H30年度決算額	131,970千円
事業の目的	利用者の利便性向上を図るため、体育施設及び設備の整備を進めます。			
事業内容	体育施設等の管理及び整備			
達成状況	平成30年度 主な事業 (1) 伊那市民プール 50M プール内 解体ほか工事 (次年度繰越 47,617千円) (2) 伊那市民体育館サブアリーナ 軒天張替修繕工事 (3) 体育施設トイレ改修工事 (伊那西グラウンド・サンビレッジ体育館) (4) 高遠スポーツ公園屋内プール 集毛器修繕 (5) 伊那スタジアム フェンス取付修繕工事			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化施設の整備及び施設の統廃合を順次進める必要があります。 【方向性】平成28年度に策定した「伊那市体育施設整備計画」に基づき、体育施設の計画的な改築・更新及び統廃合を行っていくこととします。			
自己評価	a			



春の高校伊那駅伝



第51回日本女子ソフトボールリーグ1部

【参考】

令和元年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書
追加・廃止事業及び前年度自己評価から変更のあった事業にかかる評価理由

1 追加事業

No.	該当なし	

2 廃止事業

No.19-2	親孝行の讃歌事業	
隔年実施事業により、当該年度は実施せず		

3 前年度自己評価から変更のあった事業

No.1-2	キャリア教育の推進	b→a
全国的にも例の無い、市内全中学2年生を対象とした伊那市中学生キャリアフェスを開催したため		
No.4-2	信州高遠美術館	b→a
観桜期企画展（八代亜紀展）において、入館者数が1万人を超えたため。		

伊那市教育委員会評価委員による意見

1 教育委員会の自己評価について

「妥当」である。

【理由】 地域の特性を考え、多くの住民に対する事業を展開するという意識が感じられる。

2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- (1) 地域で子育てを行う、地域住民が学ぶというコンセプトが事業の随所に感じられる。
- (2) 高遠高校の交通弱者への支援や様々な障害を持った方への支援など、社会的に弱者になりがちな人々への支援体制が感じられるが、十分なサポートとなっているか振り返りをしてもらい、さらなる事業推進を望む。
- (3) 文化・スポーツ振興に関して、今後は学校教育・生涯学習とつながりのある多くの取組を考える時期ではないかと感じている。学校の部活動が生涯スポーツとなって地域に根差し、地域で文化・スポーツを育成・指導・支援・発展させる取組を、市独自ではなく広域的な視野で構築していくことが大切ではないかと考える。
- (4) 文化・スポーツのみならず、高等教育という観点でも地域の人材や特性を有効活用できる施策を展開することにより、地域からの流出を減らし、地域の発展・存続とつながるような事業ができれば理想である。
- (5) 伊那市には、学校教育の充実にもある通り「生きる力」を育む土壌がある。産学官の郷土愛プロジェクト等、仕事＝生きる力に結びつける取組も見られる。これからの時代、個性を見出し、好きなことを仕事にしていく探求心や型にはまらない頭の柔らかさ、創造力、人柄など、小中学生時代から体験できる場所を作り上げることも大事だと考える。
- (6) 各事業内容は市民に開かれていて充実し、個々の課題も明確になっている。それぞれの連携によって課題の受け皿にもなりうる事業が多くあり、そこにさらに活路が見いだせると感じた。
- (7) 伊那市は穏やかな素晴らしい地域であり、あまねく人々がこの素晴らしい地域環境にあった生き方を選べるような教育、スポーツ環境の基盤が整っている。この環境をコーディネートできる人材をさらに育成、登録して、それを活用できる人材育成制度（有償ボランティア）の検討を願う。
- (8) AIの時代だからこそコミュニケーションや人が人を支えることの重要性が求められている。教育・文化・スポーツという、それぞれに運用・機能している分野を全体的に統括し、互いに支援し合えるよう調整する中間的な人材バンクの必要性を感じる。組織的なつながりができることによって多様な情報が集まるようになり、やがては地域の力になっていき、災害等の現場などでも力が発揮されることが期待される。

3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
1-2	キャリア教育の推進	産学官交流時に個人事業者という立場で、市内中学校の生徒向け講話をして感じたのは、大人と子どもが考えていることにはまだ温度差があるということ。子どもが大人に求めていること、逆に大人が子供に求めていることを直接言えないことがまだ多くあり、その間に入る事業者の立場はこれから大事になってくる。
3 10 11 17 27 48 等	幼保小中の連携 公私立高等学校振興 信大・東京藝大との連携 市民大学・大学院 生涯学習センター 総合型地域スポーツクラブ	幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校・大学・市民大学・生涯学習センター・総合型地域スポーツクラブ・文化施設の各事業につながりを持たせ、地域に根差し、地域で文化・スポーツを育成・指導・支援・発展させる取組を構築していくことが大切である。
12 ～ 16	心の教育と支援	心の教育の分野において、伊那市は様々な場面で対応が早く、県とも協力しながら大変よくやってくれていると感じる。
27	生涯学習センター	生涯学習センターの利用率向上のため、定期的に借りる団体がない時間や季節に、センターの自主イベントを入れるような工夫をする必要があると考える。
30	学童クラブ	青少年の健全育成のための学童クラブのニーズは増えていくばかりで、子どもたちの育成を考えると、その目的は単に子どもを預かるだけではなくなっている。指導員のスキルアップは健全育成のためには必須である。そのための指導員の資質向上や外部委託は可能性等検討されたい。 宅養老所の中には、介護と保育とが一体になった施設もある。人材確保が難しい中で、そういった施設に子どもを見守ってもらう方がよい場面もあると考えるので、連携を検討してほしい。
32	青少年育成対策	子ども会・育成会の活動は、子どもたちのこの時期に必要な体験や楽しみ、思い出など、地域への愛着へと繋がるものであるため、地区の組織問題や少子化という現実もあるが、十分な支援をするべきと考える。
37	信州伊那井月俳句大会	テレビ番組による俳句ブームもある中で、多様なチャンスにつながると思われる事業である。
42	信州高遠美術館	全国的にみても、今や美術館カフェスペースは集客の必須となっている。高遠美術館のカフェからの景色は素晴らしいので、カフェの運営を工夫することにより、展示会やイベントとの相乗効果が期待でき、充実した施設になるのではないかと。
43 ～ 46	文化財の保存・継承・活用	伊那市には文化財も多く、見るものがたくさんあるが、産業に結び付いていないのが現状だ。また、子どもたちが文化財に関わることで、自分の地域の文化財の価値がわかり愛着が沸く。文化財を有効に活用することにより、地域の活性化に繋がっていけばよいと考える。

No.	事務事業等	意見等
47	市民体育祭	市民体育祭を開催するにあたり、一つの競技だけで大会を運営するのではなく、期間中1日だけは、例えば卓球関係者がサッカーをするなど他の競技を経験することにより交流を図ったり、競技者だけでなく一般の人も参加できる「ポッチャ」などの競技を楽しむ日を設けたりすることを検討願いたい。その運営は各団体の当番制で実施することなどが望ましいと考える。
48	総合型地域スポーツクラブ	<p>スポーツクラブは国の指針にのっとり、長野モデルを元に市と協働で平成21年から活動をはじめたが、時代とともに内容も変化する中で、平成31年から、教育委員会、各学校が中学校部活動の活動の範囲に対しての指針を明確にした。これにより、地域の子どものための学校外でのスポーツ・文化・学習活動やそれを支える保護者、指導者の活動の方向性が見えてくる。今後も学校だけでは支えきれない地域の小中学生及び高校生の自立した活動を推進するため、学校、競技団体、スポーツクラブの連携した活動に期待する。</p> <p>子どもたちが加入している各種スポーツクラブ団体の活動は、少し勝利至上主義的な活動になってしまっていると感じる。海外では様々なスポーツに取り組む中で一つのスポーツを選ぶ。日本では小学生のころから一つのスポーツに取り組んで燃え尽きてしまい、中学、高校へと続かない傾向がある。スポーツへの取り組み方がもっと楽しんで出来るものへと変わることが望む。</p>
49	春の高校伊那駅伝	毎年伊那駅伝の時期は、ランナーが街を走る姿に住民も注目し、応援する姿勢も充実し盛り上がっている。関係する多くの方々により引き継がれる大きな力と地元住民や多くのボランティアの支えの賜物と思われる。今後もボランティアの重要性を理解し原動力とすることを期待する。

令和元年度

伊那市教育委員会評価委員

伊那北高等学校長

中部PTA連合会会長

伊那市女性人材バンク

埋橋 浩

垂水 浩二

山岸 洋子